

10月10日は日本転倒予防学会が制定する「転倒予防の日」です。

この度、厚生労働省と消費者庁が日本転倒予防学会と協力して、「転倒予防の日」を契機に、国民に対する転倒予防の呼びかけを行っています。

職場での転倒災害は、令和2年で30,929件と労働災害で最も多く、今年も前年同期比で約2割（令和3年9月速報値）と大きく増加傾向です。

また、高齢者の転倒・転落は骨折や頭部外傷の重大な傷害を招き、要介護の主な原因の4番目に挙げられています。

また、高齢者の「転倒・転落・墜落」による死亡者数は「交通事故」による死亡者数の4倍です。

転倒の原因として、加齢による身体機能や認知機能の低下、病気や薬の影響、運動不足による身体機能の低下、散らかっている部屋や衣服などの生活環境の要因などがあります。

これらをチェックして転倒の原因を減らす事が大切です。

入院生活でも「転倒・転落」は頻繁に発生し、特に回復期リハビリテーション病棟は、他の病棟や施設と比較しても多発しています。

当院回復期リハビリテーション病棟は、今年度から転倒予防指導士を中心とし、転倒予防チームを立ち上げ、転倒・転落状況の調査を行いスタッフへの周知や、ポスターの掲示、必要物品の購入など、少しずつ取り組みを始めました。

「転倒・転落」をゼロにする事は不可能ですが、少しでも発生件数を減らし安全な入院生活を過ごして頂ける様に、今後とも様々な活動をしていこうと思います。

参考・引用文献： 厚生労働省広報資料

消費者庁チラシ「毎日が転倒予防の日～できることから転倒予防の取り組みをしましょう～」

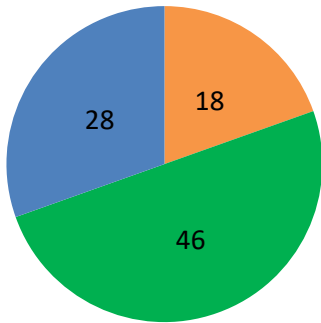
日本転倒予防学会研修会資料



【2021.1月～6月回復期病棟転倒事例 92件】

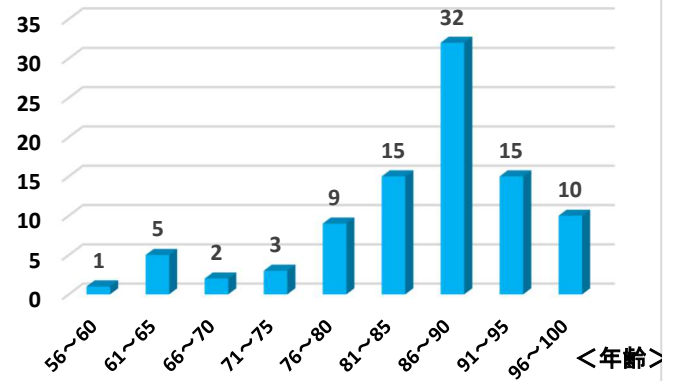
疾患別件数

■ 高次脳 ■ 運動器 ■ 脳血管



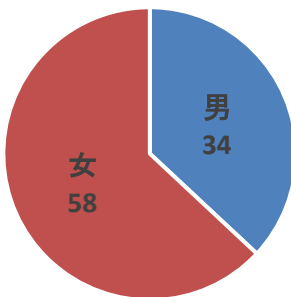
年齢別件数

<件数>



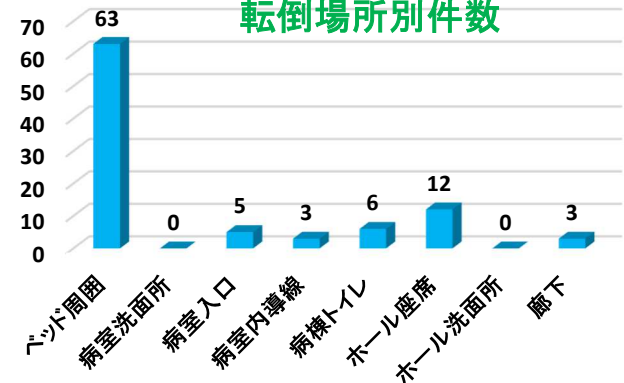
※後期高齢者が多数

性別毎の件数



■ 男 ■ 女

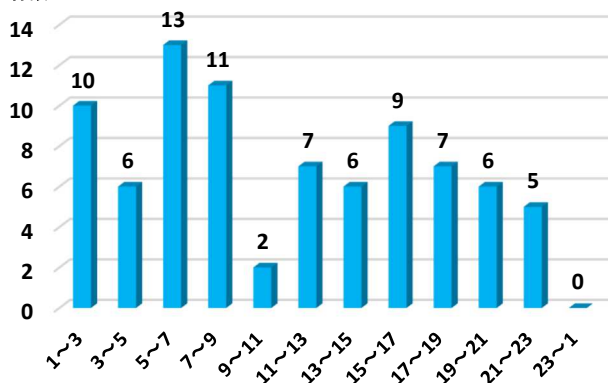
転倒場所別件数



※ベッド周囲が圧倒的に発生率が高

発生時間別件数

<件数>



※深夜や早朝などスタッフが手薄な時間帯に多い傾向。

排泄との関連が推察され、患者ごとで排泄回数

## 服薬別転倒件数

